

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	R3年に職員と理念を考え変更したので、共有し実行できていると思う。	管理者と職員で話し合い「寄り添う心」の理念を作り各フロアに掲示されている。毎月のユニット会議で振り返りながら、入居者・職員へ「寄り添う」を考え、共有しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	できていない。	地域の方々とはコロナ感染が時々あるので交流が難しい状況にあるが、地域のかかわり版や広報誌が回ってくるので地域の様子を把握することに努めている。地域は高齢化や少子化問題で行事が少なくなっているが、今後は小学生の慰問も予定されており、来年度に向けて地域と交流を計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みの報告は行っているが、地域の方からの意見はなかなか出ない。	運営推進会議には市役所高齢課職員・町内会長・包括支援センター職員・地区民生委員・同法人施設管理者など2ヶ月に1回開催し現状の報告や意見交換を行っている。今年は消防避難訓練の時に運営推進会議を開催し一緒に参加してもらい、事業所の現状を体感してもらい意見を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時の連絡や相談は行っており、協力関係は築けていると思う	柏崎市職員に運営推進会議に参加してもらい資料を渡し、参加してもらう事で実情を伝えている。市の研修会もあり参加して顔馴染みの関係を築きながら協力関係に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修を行い、職員にも周知している。玄関の施錠は夜間以外は行っていない。	年間スケジュールに研修計画を立てており、身体拘束防止委員会が3ヶ月に1回開催し協議検討を行い職員全体での内部研修を実施している。研修での感想や自己の気づきを記録し回覧している。また、職員全体で理解を深め日々のサービス提供に活かしている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時と定期的な研修を行っている。委員会では現場でのケアの方法などが不適切ケアや虐待になっていないかの検討を行っている。	虐待防止委員会も3ヶ月に1回開催され、内部研修も実施している。日々の生活の中で不適切ケアを疑われる時はその場で注意喚起するなど、職員全体の共通理解を深めるとともに不適切ケアを行わないように努めている。新人職員には法人部長よりマニュアルの説明があり研修を実施している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行っているが、制度などについては理解できていない職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明し、利用者や家族の疑問や不安な点はよく確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には定期的に意見を聞くようにしているが、家族には外部評価の際にしか意見や要望を聞けていない。出た意見は運営に反映させている。	毎日の生活の中で、管理者や職員との会話から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、いろんな意見や要望を話してもらうように努めている。利用者家族から意見や要望を伺う事はなかなか難しいが、受診外出で話したり、居室担当者から日々の生活の様子を毎月手紙にして送付して知らせている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い話す機会を作っているが、なかなか反映できていない部分もあると思う	管理者は日頃から職員からの意見や要望を聴き取り、毎月のミーティングで話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、技能実習生も受け入れしているので生活全般や言葉なども含め、広く意見や要望を聴き取り、運営にも反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談なども行い、職員と話す機会をつくっている。やってみたいことや、研修などに参加してもらい、やる気につなげていっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は多くあるが、外部研修にはなかなか行けていないので、外部の研修に出る機会を多く作っていくようにしたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は研修や交流の場があるが、職員はそのような場に行ける機会が少ない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に本人や家族から今までの暮らしや、好きな事、嫌いな事などを聞き取り、施設で安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際には不安な事、要望などを聞き、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なかなか他のサービスの利用の支援はできていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分でできる事はやっていただくことを利用者、家族に話している。食事作りやたたみ物などを職員と一緒に行うようにし、職員も過剰な介護をしないよう心掛けている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な受診は家族に行って頂いたり、衣替えなども行って頂いている。家族との外出や外泊もしてもらい、家族の絆を大切にいただいている。	日頃から利用者家族と連絡を取り合い、受診外出してもらっている。受診の際には、柏崎市の書式「物忘れ連絡シート」等を活用するなど、情報提供に活かしている。外出・外泊・面会も制限はしておらず、季節ごとの衣替えを依頼したりしており、家族との繋がりを大切にしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居している方全員ではないが、昔からの友達の家に食事に行ったり、面会に来ていただいたり、今までの関係が途切れないようにしている。	受診外出で家族と馴染みの店に買い物や食事に行ったり、自宅に立ち寄ったりしている。在宅の時の友達が来所され居室で面会したり、友達の家に行き食事をしたりと継続した関係が続いている。馴染みの訪問理美容から髪カット・染め・パーマなど個人の希望に添って利用し、関係継続が出来るよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じてホールの席替えや、職員が間に入り会話の橋渡しなど行っている。入居者同士の声掛けや介助をしている際はそばで見守るなどしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院して退去となることが多いが、退去後も必要時にはカンファレンスに参加したりなどして、退去後もサポートやアドバイスするようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか本人の思いを聞けていない。話を聞けない人は、家族や職員間でどのようにすることが本人の為か、本人が希望していることは、などは話合っている。	入居前申し込み時に本人や家族から聴き取りを行い、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。「子供に迷惑をかけたくない」との思いが強い利用者もいるようだが、回想法を試してみるなど、本人に寄り添い支援出来るように努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に話を聞いたり、本人にも話を聞いたりし把握に努めている。	これまでの暮らし方、生活歴や生活環境などの基本情報を聴き取り、家族や以前のサービス利用の様子も把握に努めている。日々の生活の中でも話しやすい雰囲気づくりに努め、より深く理解できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、毎月のミーティングなどで状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで利用者の課題や問題点などについては話し合いを行えているが、ご家族との話し合いは、プラン変更時などにしか行えていなく、現場職員も参加しての家族との話し合いの場などをつくっていただければいいと思う	日々の記録ケアカルテより情報を収集するとともにモニタリングシートを活用し、毎月担当者がモニタリングを実施している。半年に1回、または、1年に1回プランの見直し変更時に家族への聞き取りや、利用者、居室担当者、管理者で話し合い「具合が悪くなった時どのようにしたいか」などの聞き取りも行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は毎日の記録以外できていない。情報共有は毎月のミーティングで行えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診を施設で行ったり、柔軟な対応ができるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や協働はあまり行えていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族が同行してくれたり、ご家族が行けない時は施設の方で対応している。入居しても今までのかかりつけ医で診てもらい、施設も医師に情報提供や適宜電話で情報を伝えたりなど関係を築いている。	本人及び家族の希望を大切に往診医やかかりつけ医に受診ができるように支援している。かかりつけ医に受診際は、柏崎市が提供している「もの忘れ連絡ノート」を活用し情報提供を行っている。家族が受診同行ができない場合は、管理者が病院へ付き添い適切に医療を受けられるよう支援している。体調変化時には病院の看護師に相談することで、医師よりその後の対応や搬送先への連絡をしてもらっている。往診、かかりつけ医ともに処方箋は提携している薬局より配達される。また薬の変更内容等は薬剤師より病院に確認を行い適切に服薬できるよう連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師はいないが、併設の小多機に來ている看護師に相談したり、気になる事があると、病院に確認の電話をしたり、病院の看護師とも連携を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に情報提供を行い、入院時も定期的に状態の確認、退院時には病院の相談員との面談などを行い関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族には重度化した場合や終末期の希望などは聞き取りを行っている。事業所では看取りは行っておらず、方針なども定まっていないのでそれは課題と思っている。	入所時に利用者、家族に終末期、重度化について説明と意向確認を行っている。事業所では、終末期医療との連携等による看取りは行っていない。しかし、状態変化があった場合は利用者家族と話し合い、事業所でできることを説明し方針を共有し地域の関係者とチームで支援に取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングなどの際に急変時や事故発生時の対応の話はするが、実際訓練などは行っていない。	急変時や事故発生時には職員全員が対応ができるよう電話の脇にフローチャートが貼られている。ヒヤリハットや事故報告書があがった際は、ミーティングで対応策、改善方法について検討を行っている。AED研修では、消防署より年1回説明講習が行われている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、施設でも年に2回、避難訓練を実施している。連絡網にも消防団の連絡先や、入居者の居室の入り口に写真と名前が書いてあるトリアージをぶら下げて分かるようにしている	消防や地域の消防団の参加、また運営推進委員の参加を得て利用者も参加しての避難訓練を実施している。各居室入り口には、写真と名前が記されており、色分けした紐の名札(トリアージ)が掲げられている。玄関、ホール等にヘルメットが置かれており、避難訓練時にも使用している。運営推進会議開催後に避難訓練を実施するなど工夫し地域との協力体制の関係を構築している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けの時など、他の方に聞こえるように言ってしまう時もある。	入浴排泄は可能な限り同姓介護で支援している。管理者は、排泄誘導時の声掛けや排泄介助時のトイレのドアの開閉等に気づいた時に注意し意識づけを行っている。居室のカギを管理し居室不在時や夜間帯など施錠している利用者もあり、利用者一人ひとりの尊重やプライバシーの保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるような声掛けを心掛け実践している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースでしてしまうこともあるが、一人ひとりのペースで過ごしていただけるように心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際には一緒に衣類を選んだりし、その人らしい身だしなみができるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものがあれば一緒に買い物に行くなど、できるだけ食事を楽しめるように支援している。	食事は委託業者のメニューとなっているが、お楽しみにお弁当を購入して食べ、また、近隣のラーメン屋のボランティア訪問で利用者とラーメンを食べたり、誕生日にはケーキを購入している。近隣のドラッグストアへ卵かけご飯の卵を購入に行くなど、一人ひとりの好みや力を活かし食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスが取れていると思う。水分はお茶だけではなく、スポーツドリンクなども用意し、その時に合わせて飲んでいただけるようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。義歯の洗浄、消毒も行っている。自立の方は中々確認が取れない所が課題。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声掛けも定期のものになってしまっていたり、本人の力を活かす支援は行えていないように思う。	利用者の半分ほどが、在宅時と同様に布パンツを使用している。排泄介助が必要な利用者には、さりげなく介助ができるよう声掛け誘導を行っている。排泄後は手書きの記録用紙に記録され、前回の排泄時間や利用者の様子を見ながら誘導が行われている。また、パソコンに転記され一人ひとりの自立に向けた排泄パターンの把握に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝起きてから冷たい水を飲んでもらったり、水分を多く摂ってもらったりの対応はしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決めているが、決まった曜日の日ではなくても入浴できるようにしている。	入浴の浴槽は家庭浴個浴で、リラックスできるよう入浴剤の使用や菖蒲など季節感を感じてもらえる工夫も行われている。入浴の曜日時間は決められているが、入浴を拒む人に対しては入浴日の変更を行い、また、それ以外に入浴を希望すれば入浴することが可能であり臨機応変に対応をしている。事業所では浴室内に天井固定式のリフトが設置されており、利用者の状態に合わせた入浴支援も行われている。入浴後には、持参された化粧水や保湿剤を使用される利用者も居られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて休息の声掛けをしたりし支援できていると思う		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書をファイルに閉じて、職員がいつでも確認できるようにしている。内服の変更があったら職員に周知し、数日は服薬による変化がないか気を付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせた楽しみ事の支援は行っていないと思う。好きな事ややりたいことなどできるようには努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には外出支援をしている。決まった方だけになってしまっているのが課題。家族との外出には希望時は行ってもらっている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、近隣のコンビニエンスストアやドラッグストアにお菓子や卵かけご飯の卵を買いに出かけられるよう支援に努めている。その他、車での外出も全員一緒に出掛けることはできない課題はあるが、海等へよく出かけている。また家族との外出外泊支援にも対応に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、入居時に本人、家族と確認し、持っている方については		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたいと言われる時はしていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内を季節に合わせて飾りなどづくり飾っている。エアコンの風が直接あたってしまふことがあるので気を付けている。	玄関フローアーには、利用者が作成した大きな将棋の駒が置かれ、来訪者を出迎えている。明るく広い廊下の壁面や共有空間には貼り絵や写真、利用者が制作した作品や書初めなどが飾られており、季節感を感じさせてくれる。また、共有空間脇に置いてあるソファーでは利用者が共有空間を眺めながら職員と会話を楽しむなど居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で一人になるスペースの確保はできていない。ソファーを用意して、自分の席以外にも座れるところを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家で使い慣れたものなどを持ってきていただくようにし、入居時にベッドの配置なども本人、家族と相談して決めている。	居室内は使い慣れた家具や電化製品を始め、家族からプレゼントされた人形や写真等が飾られ利用者の居心地の良い空間となっている。持参された大正琴は飾るだけでなく、利用者と職員と一緒に歌う伴奏にと役割も担っている。居室内の掃除は職員と一緒にこなうなど、利用者の気持ちや居心地の良さに配慮する工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の電気の付け方が分かりにくいなど、利用者さんにとって難しい作りになっているところがある		